

Play Framework

■導入手引き

下記記述参照先：

<http://mofmof721.hatenablog.com/entry/2015/12/27/002034>

* Play Framework 2.4についての導入

- ・ jdkのインストール
- ・ Play Frameworkのダウンロード
- ・ Play Frameworkのインストール
- ・ 新規プロジェクト作成
- ・ Playアプリケーションの起動
- ・ Eclipseにプロジェクトをインポート

PlayFrameworkの特徴

高速開発

Play Frameworkは**軽量なフレームワークで動作も速い**です。

また、Ruby on RailsやDjangoと同じく「MVC」という設計に基づいて開発を行うことができるため、WEBアプリ開発を高速で行うことができます。

Javaは静的型言語なので、コードの実行には前もって解析を行って変換する「**コンパイル**」という作業が必要でした。

WEBアプリ開発では、頻繁にWEBページを見ながら動作を確認することが多いので、毎回コンパイルすることで開発に時間をかけてしていました。

しかし、弱点であった「コンパイルの遅さ」も解消されているので、**コードの追加や修正が即座に反映される**ようになっています。

Javaのメリットである、**堅牢性や高速な動作を最大限活かせる**ようになっています。

リソース消費が少ない

とにかく無駄がありません。

CPUやメモリーに負担が少なく、**少ないリソースでアプリを動作させることができます。**

少ない資源で動くということは、それだけ無駄がなく速いということでもあります。

これは規模がどんどん変化していくWEBアプリでは重要です。

大規模まで耐えられるアプリを作れるので、将来のことをあまり心配せず開発を行います。

高い拡張性

Play Frameworkは最新技術に関するものまで**幅広く対応**しています。

CSSの拡張言語であるSassや、JavaScriptの拡張言語であるCoffeeスクリプトにはじまり、**リアルタイム通信やテストに関するものまで**一通り揃っています。

幅広く対応しているので、**どんな開発でも最も効率の良いものを選ぶことができる**ため、開発がスムーズに行えます。

上記記述参照先：

<https://www.sejuku.net/blog/10585>

Javaの常識を変えたフレームワーク「Play Framework」とは？